

企業経営と新製品開発

企業の技術戦略

研究員 坂巻 資敏

企業経営を支える技術

企業経営が単一の事業で経営される場合と複数の事業を統合しながら経営する場合がある。

後者の場合は各事業に共通して必要な技術と各事業固有の技術に分かれる。前者を「基盤技術」といい後者を「コア技術」という。

「コア技術」とは、その事業に参入するためには不可欠な技術であり、事業の中核をなす技術である。コア技術の特許にすれば基本特許になり、競業企業の事業参入を阻止できる可能性が高い技術である。

基本特許を取ったとって安心せずコア技術を改良した「延命技術」の開発と知的財産権化の活動は継続して行うことが必要である。

また製品を開発し、商品として売り出すには、基盤技術、コア技術と延命技術のほかに「周辺技術」が必要である。

周辺技術の開発も重要になる

周辺技術とは、製品を構成するために必要不可欠の技術である。

例えば、半導体をシリコンウエハー上に作る技術を半導体の「コア技術」とすれば、これを製品に組み込むための回路技術は周辺技術になる。半導体のコア技術を権利化しても、これを製品に搭載するための回路技術の特許を他社に権利化されてしまうと、コア技術を生かした製品開発が出来なくなる。

これらの技術の開発責任については基盤技術は本社が管轄する研究開発部門が責任を持ち、コア技術については既存事業に関するものは事業部が責任を持ち、企業として新規事業を立ち上げる時は、研究開発部門が責任を持つ。

延命技術と周辺技術の開発は事業部門の責任であるが、事業部から研究所にQCDを明確にして開発委託するものもある。

基盤技術戦略

基盤技術は一般的には加工技術、分析・試験技術、と製品の基本性能にかかわる科学的研究から得られる新知識とこれを応用した技術である。

基盤技術は企業の将来の事業活動を保証するための活動であり、性能の桁アップや生産コストの桁ダウン、加工精度や検査性能の向上などについて取り組む。また材料がらみの製品開発では新しい材料の開発と、これの応用技術開発等が基盤技術のテーマとして取り上げられ開発される。

コア技術戦略

多くの製造業にとって、事業を強くする技術戦略は、コア技術戦略とこれの改良技術開発戦略である。

コア技術戦略の検討では、ある目的を達成する技術的な手段は複数あるから、これらのアイデアの優劣を比較検討して、最も性能が良くて生産しやすい方式を選定することである。

—以上—